

双葉町復興まちづくり計画案に盛り込むべき内容について  
～委員からの提案(きずな部会分)～

委員氏名	1 計画の基本理念やキャッチフレーズ	2 その他計画に盛り込むべき内容
重富 秀一	(1) 基本理念 ① 誇りある故郷ふたばの再生実現 ② 安全・安心が保たれる持続可能な町づくり ③ ふたばを愛する7000人すべての人の力を結集した復興 (2) キャッチフレーズ ○ ふたば「起き上がって」再生するぞ！ ○ とりもどそう双葉 ○ ふるさと双葉の再生と帰還にむけて	＊ 復興促進のため双葉郡7町村との連携強化を図り、特に隣接する(北部双葉地区)との共通案件や課題の解決に向け行政機能の統一化等を検討する。 ＊ 将来を担う子どもたち(小学生・中学生)の意見を反映出来る計画
高野 泉	＊ ハッピー アイランド 双葉 ＊ ”みんなで 支えあおう 双葉”	＊ 中・長期の計画
中村 富美子	＊ 未来につなげる双葉町の絆 ＊ 伝えて守る双葉町	＊ 私達がなぜ双葉町の古里から出て現在ここに居なければならないのか伝え続けたい。 ＊ 原発事故のウソ、本当 二度と事故は起してはならない。私達だけでもう被害者を出さないでほしい。

「双葉町復興まちづくり」の目標

双葉町復興まちづくり委員会委員 宇杉和夫

最初ですので、双葉町復興まちづくりの基本的な検討課題・基本方針をあげます。

(20120827)

1. **持続再生デザイン** (リデザイン・リレーデザイン)

地域に持続継承されてきた環境を、次世代(「将来、双葉町に居住する人」「双葉町に居住体験のある人の関係者」)にどう引き渡すか

(目標とシステムの抽出)

2. **仮居住デザイン** (プロセスデザイン・ふるさとデザイン)

3・11からの非難仮居住プロセスの地域との絆の延長にあるデザインである  
仮居住地は仮居住者(特に子どもにとって)の第2のふるさとである

(これまでの経過と意識の整理とコミュニティシステムの提案)

3. **持続防災復興デザイン** 目標の共有化 (地域の共有化、周辺地域との共有化)

双葉町町民としての「まもり」と「きずな」の目標を明確化、共有化する  
周辺地域・友好都市と、「まもり」と「きずな」の連帯目標を明確化、共有化する

(地域主権と地域支援・地域連帯の方法の構築)

4. **新生国土ランドデザイン** (ふくしま浜通りふるさと原風景デザイン)

東日本大震災復旧復興の象徴的なコミュニティデザインとなる  
ふくしま地域再生・東日本国土再生の基盤になる地域の原風景とその活用システムを、  
時間をかけて再生する

(双葉町固有の課題を新たな日本国土再構築の課題に連続させる)

5. **新システムの創生** (持続継承システムを再生・再活性化する新システムの創造)

新空間システムと新社会システムの一体的な提案  
人類史にない全く新しい課題に直面していることを自覚し、上記の目標、検討課題に  
対して、先導的な解決方途を世界に示すことになる

(制度・社会システムの再編成が課題である)

「双葉町復興まちづくり」の進め方について

双葉町復興まちづくり委員 宇杉和夫

双葉町復興まちづくり委員会のこれまでの議論を基礎として、基本的な検討課題・方針の進め方についての意見です。意見の収集を重ねるだけでは発展的な展開にならない。意見の収集の前、あるいは並行しての実態・経過把握の報告（個人的な意見とは別）の必要性を重視します。また、長期的な展望・構想についての議論と、現状問題の早期必要な対策の問題は関連的であると思います。（20121014、15補足）（2. 以下は順不同）

1. 双葉町町民全体の「コミュニティネットワーク」の構築を第1に考える  
（7000人の復興会議＋「双葉町（町外）コミュニティネットワーク」）
2. 双葉町持続再生の広報ネットワークの構築を重視し、検討する  
（双葉郡ネットワーク＋全国広報＋国際広報）
3. 双葉町で体験してきた地域居住環境としての「（双葉町の）原風景」の価値を共有する  
（谷戸里山原風景＋浜通りコミュニティ＋海岸線風景＋東日本大震災被災風景）
4. 双葉町町民の避難・仮居住の全体的経過とそこでの課題を把握する  
（津波避難の記憶空間＋放射線汚染の経過の記憶空間）  
（対放射線避難の経過の時系列断面）
5. 被災保障と仮居住・復興居住の早期安定化と復興目標の関係  
（復興目標に関連するものと、緊急のものとの区分。復興目標の段階的確認・共有）
6. 放射線対策、除染等  
（15日、本日の委員会で、木村真三委員からの報告「チェルノブイリに学ぶ福島・双葉町の現状」をお聞きしました）
7. コミュニティ対策；居住地区コミュニティ＋町外コミュニティシステム  
（高齢伝承コミュニティ＋子供教育コミュニティ＋壮年ビジネスコミュニティ）  
（復興・伝承コミュニティ＋支援コミュニティ）
8. 町外コミュニティシステム：「双葉町（町外）コミュニティネットワーク」＋仮の町  
（「コミュニティ」とコミュニケーション：概念規定と内容の選択可能なモデル化）  
（「仮の町」については具体的な諸内容の要求よりは、最初に「双葉町コミュニティ」と関係した概念規定についての議論・検討・モデル化が重要）
9. 「不地域（双葉町：これからの長い道のり）産業」・コミュニティビジネスの検討  
（就業支援、NPOその他法人化等も含めた長期的な対策、主体性・固有のビジネス起業化の検討）
10. 新国土環境学習システム＋（不）地域コミュニティデザインの検討  
（日本国土環境学習体制新構築の必要性＋地域コミュニティデザイン・不地域コミュニティデザイン）

## 「双葉町復興まちづくり」のテーマについて

### —双葉町持続コミュニティデザイン「仮の町」システム—

双葉町復興まちづくり委員 宇杉和夫

双葉町復興まちづくりに参加して、また「きずな部会」に参加して、皆様との議論を通して、以下のコメントを年の初めにまとめてみました。個々の内容については幅広く議論・協議の上、双葉町町民に限らず、支援地域においても、あるいは日本国民の間にも共有化していくことが重要である。(20130104)

#### 1. 「双葉町持続コミュニティデザイン F・SCD」が望まれている。

- ・ 「双葉町持続コミュニティデザイン F・SCD」を下の図式で考える。
- ・ 「F・SCD」には「F・SCD・地域交流支援システム」の早急な構築が必要である。
- ・ 「双葉町町外(持続)コミュニティネットワーク」の構築が現在の最大の課題である。
- ・ 「双葉町地域コミュニティ再生継承デザイン」の合意が必要である。

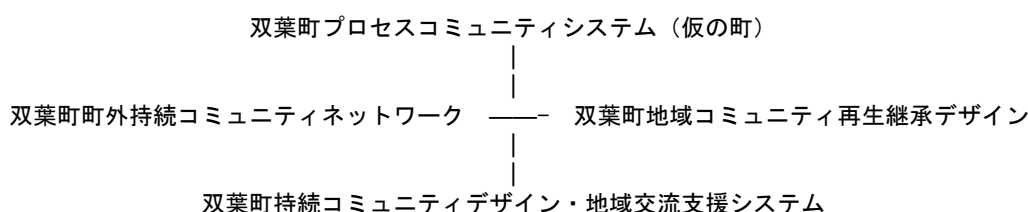


図1 「双葉町持続コミュニティデザイン F・SCD」の計画枠組み

#### 2. 「双葉町地域コミュニティ再生継承デザイン F・SAD」の合意が必要である。

- ・ この国に人の住めない国土をつくってはならない。地域空間双葉町を再生し、次世代に継承しなければならない。「双葉町地域コミュニティ再生継承」の長い「プロセスデザイン」の目標の合意と、あわせてファーストステップの合意が必要である。
- ・ 「双葉町地域コミュニティ再生継承」の長い「プロセスデザイン」の目標とは「双葉町の地域の原風景」、「双葉町地域コミュニティの原風景」の再生・継承と考える。
- ・ 「双葉町地域コミュニティ再生継承」のファーストステップは、「仮の町」とあわせて関連的に「双葉町地域」の中に「地域コミュニティ」の象徴としてどのような居住空間(「帰還の船」)を最初につくるか、である。

#### 3. 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の構築が基盤になる。

- ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の基礎Aは「町内会」と「学校」である。
- ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の基礎Bは「避難仮居住(学校)プロセス」である。

- ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の基礎 C は「現在の避難仮居住（学校）」である。
  - ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の基礎 D は「仮の町（システム）」すなわち「双葉町プロセスコミュニティシステム（仮の町） F・PCS」におけるネットワークである。
  - ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」の基礎 F は「帰還の町（システム）」におけるネットワークシステムである。
4. 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク F・SCN」は、次の内容を課題とする。
- ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク」の対象町民の現状を特定する必要がある。①（福島県外）避難施設居住者、②応急仮設住宅入居居住者、③福島県内の借り上げ応急仮設住宅居住者、④福島県外の借り上げ応急仮設住宅居住者、⑤福島県内に仮居住している上記以外の居住者、⑥福島県外に仮居住している上記以外の居住者、⑦福島県内への震災後移住者、⑧福島県外への震災後移住者。なを、町民の居住移動経過プロセスを常時把握し、モデル化したものを「F・SCD 基本計画資料」とする。
  - ・ 「双葉町町外持続コミュニティネットワーク」は、地方自治行政体町民と行政サービスの関係、および町民参加行為の円滑な運営を行えるものとする。
  - ・ 同上は、町民相互の地域内コミュニケーション・交流と、ビジネスも含めたあらゆるコミュニティ活動・福祉活動を再生し持続的に活発化するものとする。
  - ・ 同上は、震災以前の双葉町の歴史的なコミュニティシステム、コミュニケーションシステムを基礎にし、持続的に発展するものとする。
  - ・ 双葉町の郷土固有の持続的なコミュニティシステムについては、記録記憶の整理発見を重視し、「コミュニティアーカイブ」として次世代に継承することを目的とする。
5. 「双葉町持続コミュニティデザイン・地域交流支援システム F・RCS」の統合的編成が必要である。
- ・ 双葉町町民が避難仮居住した支援地域において、支援地域との交流は重要な課題である。これをシステムとしてモデル化、統合化する必要がある。
  - ・ 支援地域との交流にあたっては、双葉町原風景および地域固有の空間資産や伝統的文化的資産の継承行事が価値をもっている。地域固有の空間資産・歴史文化資産については、記憶伝承のみならず再発見・発掘も必要な課題である。
  - ・ 「双葉町復興」は東日本復興の象徴的な存在である。各支援地域とは今後継続的に相互支援の形を形式化し、そのプロセスを日本国民に、世界に示していく必要がある。
6. 「双葉町プロセスコミュニティシステム（仮の町） F・PCS」の構築
- ・ 「双葉町・仮の町」とは「双葉町プロセスコミュニティシステム」を実現する空間および空間システムすなわち「双葉町持続コミュニティデザイン」の拠点（群）である。
  - ・ 目的と役割を明確にした「プロセスデザイン」と「双葉町原風景」および目標となる「帰還の町」が表現された居住再建持続機能空間「仮の町」構築へ